

# 様式 2

## 平成28年度 安曇野市食育推進会議（第1回） 会議概要

1	審議会名	安曇野市食育推進会議（第1回）
2	日 時	平成28年7月27日 午後1時30分から午後3時00分まで
3	会 場	穂高健康支援センター
4	出席者	本郷会長、堀内副会長、中田委員、曾山委員（代理）、豊田委員、上條委員、小島委員、堀内委員、宮澤委員、阿部委員、松尾委員、辻野委員、後藤委員、南沢委員
5	市側出席者	堀内保健医療部長、宮下健康推進課長、高橋センター長、久保田係長、竹澤管理栄養士、小松管理栄養士、臼山歯科衛生士、斉藤管理栄養士、長田管理栄養士、伊藤管理栄養士
6	公開・非公開の別	公開
7	傍聴人	0人 記者 1人
8	会議概要作成年月日	平成28年7月28日
協 議 事 項 等		
1	会議の概要	<p>(1) 開 会</p> <p>(2) 委員の委嘱</p> <p>(3) 保健医療部長あいさつ</p> <p>(4) 自己紹介</p> <p>(5) 安曇野市食育推進会議条例について</p> <p>(6) 会長選出</p> <p>(7) 会長あいさつ</p> <p>(8) 協議事項</p> <p>① 安曇野市食育推進計画（第2次）について</p> <p>② 平成27年度食育推進事業実績・平成28年度食育推進事業計画について</p> <p>③ 平成28年度食育推進事業予定について</p> <p>④ その他</p> <p>ア 国の第3次食育推進基本計画</p> <p>イ 今後の方向性</p> <p>ウ 健康寿命延伸のために各ライフステージで取り組むこと</p> <p>(9) 閉会</p>
2	審議概要	<p>① <input type="checkbox"/> 安曇野市食育推進計画（第2次）について</p> <p>（会 長）安曇野市食育推進計画（第2次）について事務局より説明をお願いします。</p> <p>（事務局）安曇野市食育推進計画（第2次）についての説明</p> <p>（会 長）安曇野市食育推進計画（第2次）について、ご質問ご意見等ありましたら、お願いします。人間というのは1つのところだけ捉えるのではなく、ライフステージで一生を見ないと分からないと思う。そういった意味で、この計画書は非常にきめ細かくよくまとまっていると思う。自分のことだけではなく、子どもや祖父母、周りの方の状況に対してどのような対応策をしたらいいのかということが載っていると思う。家族と一緒に見て、ご意見をいただければと思います。</p> <p>② <input type="checkbox"/> 平成27年度食育推進事業実績・平成28年度食育推進事業計画について</p> <p>（会 長）平成27年度食育推進事業実績・平成28年度食育推進事業計画について事務局より説明をお願いします。</p> <p>（事務局）平成27年度食育推進事業実績・平成28年度食育推進事業計画についての説明</p> <p>（会 長）平成27年度食育推進事業実績・平成28年度食育推進事業計画について、ご質問ご意見等ありましたら、お願いします。</p> <p>（委 員）低出生体重児の出生を減らすということで、H26は10.6%のお子さんが2,500g以下でお生まれになっているという説明がありました。末期産でお生まれになった子が2,500g、それともご病気等で早産になられた子も入っているのでしょうか。</p> <p>（事務局）全部入っています。</p> <p>（委 員）目指しているのはお母さんの痩せを問題とした低出生体重児となりますと、この統計の中では満期産で生まれて2,500g以下のお子さんが重要になってくるのではないかと思います。病気等で早くお生まれになってしまうのは、母体とお子さんの両方の問題があると思うのですが、その辺の統計は</p>

どうなのでしょう。

(事務局) そこまでは現在出していませんが、おっしゃるように、小さく生まれたお子さんのお母さんが妊娠前に痩せていただけとは限らないので、その辺りもう少し精査していく必要があるかと思えます。ただこちらとしては、どういう風に予防していくかということを考え、まず取り組みしやすいところから始めていければと考えています。

(委員) 特定保健指導実施率、H27の実績が47.5%、H28の計画は100%となっていますが、かなり頑張らないとできませんが、何か計画はあるんですか。

(事務局) 特定保健指導と特定保健指導以外の保健指導があるのですが、特定保健指導以外の保健指導の対象を絞ることで余力をもたせて、特定保健指導への関わりを増やすということで考えています。

(委員) 特定保健指導に入る前に関わりを持つということですか。

(事務局) 特定保健指導は国で決められた基準がありやっていかなければいけないんですけど、その他に安曇野市としては、重症化予防ということで自分たちで基準を決めて重症化させてはいない人を広く拾いながら、その方たちに保健指導を展開してきました。すぐに行かなければいけない結果の悪い人たちが中心になってしまって、特定保健指導の人たちまでいきつかなかった結果が特定保健指導の実施率の低下になります。特定保健指導をきちんとやっていかないと、努力支援制度の方にもかかってきてしまうので、実績を上げるために保健指導の基準を少し見直しました。それと特定保健指導がしっかりとできるような体制を作りました。今までは担当の保健師、栄養士にお願いしていたわけなんですけど、きちんと管理をしていかないと実際にできているのかどうか把握できませんので、そういった職員の体制を整えながら、できるだけ取り組めるように、もしそこに取り組めない場合は、なぜ取り組めないのかその人の業務量はどうかということまでみていかれるような体制を作りました。

(委員) その体制が作られて100%ということですか。

(事務局) 国保等で言っている目標は、実際にできる目標として55%というのを今年の目標に上げているんですけど、自分たちの気持ちとしても100%やっていくという気持ちがないと取り組めないということもあり、100%とここに上げています。

(事務局) 特定保健指導になる方というのはメタボの概念がないとできません。保健指導というのは痩せていても血液データの悪い方たちということで、うちはそういう方たちが多いからそこもやっていたんですが、国が言っている宿題の部分でメタボの概念のある方たちは、きちんとやりましょう。もちろんそれ以外にも痩せていてもデータの悪い方たちもみますが、今までと同じ形ではみきれないので、絞り込もうということになります。

(委員) 特定保健指導対象者945人をつかまれている、この人たちに指導しようということですか。

(事務局) そうです。

(委員) 妊婦歯科健診の受診率26.9%、昨年秋もこの位のデータであまりにも低いんじゃないかという話をしました。今の話でも離乳食教室で50何%、今話題になっている特定保健指導実施率47.5%、50%近くの値ですよ。それに対して妊婦歯科健診が26.9%、あまりにも低いと思います。もちろん妊娠中にもかかりつけ医に受診しているので、わざわざこれを利用する必要はないとか、前にアンケートの結果にありましたが、安曇野市以外にかかりつけ医がいるのもあると思いますが、そんなに多いわけではないと思います。近隣の市町村でやっている似たような形式のものに対して、安曇野市で導入する時は妊婦の方の負担金を0にしようと、とにかくかかっていたきたいので、妊婦の方の負担金はいっさいとらないという形、そのために歯科医師の報酬を減らしてでも負担を0にするという形で導入しました。にもかかわらず26.9%という値はあまりにも低いと思うので、母子手帳をお渡しする時に一緒にお渡しすると思いますが、もうちょっと積極的にかかっていただけに、無料なので、電話されてそこの医院の体制にもよりますけども、別に何曜日じゃなきゃダメとか何時じゃなきゃダメというわけではないですから、その医院のやってくる時間であればその方と折り合いさえすればどんな時間でも行けるわけですから、もうちょっとPRしていただいて、受診率を上げていただきたいと思えます。

(会長) 今のご質問ですけども、妊婦さんだけではなくて、産婦人科の先生と情報を共有して、妊婦さんに伝えるのが難しければ、産婦人科の先生から伝えていただければどうか。何回か言われていれば気になって行く人もいると思うので、そういうことも必要かと思えます。全体的に受診率とかありますが、ライフステージをずっと見ていて私が思うのは、今まではメタボだけだったんですが、一生をみていくと、松川村で分かったんですけど、60代、早いと50代位ですでにアルブミンが低くなって貧血が出ています。タバコを吸っている人がその中で多そうだとということで、やはり低栄養の方が今はやりのフレイル、サルコペディア、筋力が低下して、アルブミンが低下していることに反映されてきて貧血も出てきています。松本大学の廣田先生とも前々からお話ししてるし、宮澤さんともお話ししているんですけど、ある年齢までは太っちゃいけない、あまり食べすぎるなっていうけれど、ここからは食べなきゃいけない、肉魚しっかり食べましょうって言うんですけど、高齢者の人はずっと年とっても食べなきゃいけないと思っている人がかなりいます。そういう情報がいろんな方に伝わってないようです。メタボの概念だけだとずっと太っちゃいけない、ところが痩せちゃって栄養障害の人、結構いるんです。そういう人が早いと50代、60、70代になるといくらでもいるんですけども、そういうところもこれからは強調していかないと、高齢者が非常に増えてきてい

るので、書いてあったので少し安心したんですけども、そういう方向でロコモとか一般の方にも知っていただくようにした方がいいんじゃないかと思います。

(委員) 計画書のP6に素晴らしい内容が書いてあって、小さい頃から甘い物食べたりすると、メタボリックになるから単糖類の食習慣はできるだけ小さい頃から見直すようにしましょうということを書いてますが、学校の給食とかいうところでは、結構重要な位置付けかと思うんですよね、行政側として給食で何か気を付けていることとかあるんですか。今までは砂糖を使っていたのが、使わなくなったか、デザートのを減らしたとか何か取り組んでいることとかありますか。そもそもここで決められたことは学校給食へ反映されたりするものですか。また別なんですか。

(委員) 学校は、子どもの給食の基準量が決まっているので、栄養士の先生方がそれに基づいて献立を立てていると思います。以前よりも総カロリーとかかなり抑えめになっていますので、その基準に合わせて献立を作っています。日によっては少し高い時、低い時ありますが、全体的に1週間とか1か月単位で合わせて補正していると思います。なので甘い物が減ったかというのでしょうか。

(委員) この計画が出てからがらりと何か変わったかということはあるんですか。

(委員) 地産地消でより地元の栄養価の高い野菜を食べましょうとか、伝えましょうという取り組みはされていると思いますが、計画が出たから直接献立に反映されているということとはよく分からないです。

(委員) その連携はないんですか。

(事務局) 食育推進庁内検討委員会というのを作ってまして、メンバーに給食センターの課長補佐も栄養教諭の先生、学校教育の者も入っていますので、その中ではこういったことも話し合っていて、一緒に考えてはいます。

(委員) その連携で変わっていることもあれば、栄養士さんの裁量にお任せしているということですか。

(委員) 学校の給食というのは、長野県として基準値を定めておりますので、ここで問題視しているのは、学校給食に砂糖が使われている使われていないというよりは、むしろ普段のお食事を考えてはかがという呼びかけをしようというところに考えられていると思います。安曇野市だけ学校給食の基準量に砂糖が少ないとか、このところでは何かをやっているから特別何かが多いとかそういうのは長野県内ではあまり見受けられない状況です。給食の方管理している者として。

(委員) ここで言えば単糖類と書かれているので、いわゆる糖類全体で考えると、単糖類から多糖類に切り替えていけばいいわけじゃないですか。簡単に言うと白砂糖からお米を食べましょうと変えていけばカロリーはそのままこの方向性に合った内容に給食を変えれますよね。そういったことをしようとする人があるのか、そもそもそこはお任せかということが聞きたい。現状を聞きたい。

(委員) 現状としては各学校にお任せしているのです。もちろん特別砂糖の使用が多かったりすると、食事のバランス自体が崩れてくるので、その中で主食の使用量が全体の何%かだいたい基準が決まっています。特別学校毎に違うということはありません。

(委員) 私の想いとしてはせっかくな方がいい方針ができていますので、各家庭の食事が変わることは第一なんでしょうけど、行政が携われることに給食があるので、そういったことも方向性に見合った形に具体的に提案ができるなり、変わっていけるといいんじゃないかと思います。

(会長) ご意見として伺って、また話してください。

(事務局) 庁内検討委員会にかけていきたいと思います。

#### ③□平成28年度食育推進事業予定について

(会長) 平成28年度食育推進事業予定について事務局より説明をお願いします。

(事務局) 平成28年度食育推進事業予定についての説明

(会長) 平成28年度食育推進事業予定について、ご質問ご意見等ありましたら、お願いします。こういった予定で事業を進めていくということですので、ご協力のほどよろしくお願いします。

#### ④□その他

(会長) その他、ア 国の第3次食育推進基本計画について事務局より説明をお願いします。

(事務局) その他、ア 国の第3次食育推進基本計画についての説明

(会長) その他、ア 国の第3次食育推進基本計画について、ご質問ご意見等ありましたら、お願いします。最後に安曇野市の実情に合った取り組みをしたいということですが、それは何かということですが、長野県の課題はご存じのとおり高血圧が一番の課題です。女性の死亡率に関連している。学校の子どもたちも塩分の摂取量が多いです。食品を選ぶSATシステムというもので調べてみても塩分だけちょっと高い。親から子に伝わっている可能性があるんです。安曇野市はどうかということで、そういった機械もありますので、お祭りとかで使っていただくといい。安曇野市は血糖が高い人が多いから、糖分の摂りすぎとか、塩分を摂りすぎてる人が多いんですかね。脂質もそうですかね。いろいろと平均より高そうです。そこら辺の課題も分かっていると思うので、それに向けて具体的に何をするか。私、大学生を16年間も教えていて、やっぱり小さい頃から教育しないとダメです。大人になってからタバコをやめろと言ってもやめない人が多い。中学生くらいになると言うことを聞かなくなる子が多くなってくるので、小学生くらいまでが一番重要じゃないか。大学生にタバコが体に悪いとかカップラーメンが体に悪いとか話をすると、小学校の高学年くらいに先生に言われて頭に残っていると言います。我々が小中学生だった頃は、先生がみんなタバコを吸っていたので、そんなことは分からなかったんですけど、今そういう大学生が多いんですよ。だから教育って

すごく大事です。40人の学生一クラスにタバコを吸っているのは私の知っている範囲では4～5人くらい。非常に昔に比べて少なくなった。やはり教育がものすごく大事で2～3年後に花開くんじゃなくて、10～20年後に出てきているんじゃないかと思う。健康教育、先生方はすごく素晴らしいことをやってらっしゃると思います。薬で治すというのはどうにもならなくなった時点でその場限りのところを治している。ここにまさにそういうようなことが書いてあると思う。人作りっていうのが一番大事だと思います。それは養護の先生だけではなくて、栄養の先生、安曇野市いつも思うんですけど、運動も大事です。松本市の受動喫煙対策防止協議会の会長もやっているので、そういった環境の問題、タバコも非常に重要。運動と食事は一緒にやらなきゃダメですよ。食事だけではなくて運動も一緒に取り組まないと。タバコというのは将来の病気に非常に重要です。タバコを吸っている人は10年寿命が短い。1本について18秒寿命が縮んでいるというデータもあります。我々が社会に出た時はそんなデータまったくなかったんですが、30～40年でそういうデータが出てきた。これからの子どもたちにそういったところも重点的に教えていく、総合的な取り組みが必要かと思えます。松本市は母子保健会議で喫煙、運動、食事全部一緒にやっているんですよ。その3期目が4期目をやらせていただいているが、食事だけで独立したのではなく、生活習慣全体ということでその中に食事と運動、喫煙の問題が入っている。そういうことで取り組んでいただくと10～20年後にそういう大人が増えてきて、将来開けてくるんじゃないかと思う。松川村で健康長寿健診というのをやらせていただいている。昨年911名いた。血液検査、身長、体重、かなりのことをやらせていただいたが、その中にまったく異常のない人は50名だけでした。29～94歳で。50名の内40名は女性でした。それで女性に生まれることが長生きだと思いました。健康で長生きということが重要で、タバコを吸っている人は貧血なんかも歳をとってくると多くなってくる印象もあります。松川村に住んでいる人の生活習慣のアンケートをとらせていただいて、回収率が半分くらい570名だったんですけど、主観的健康観という自分は健康であると感じている方が男女とも80%超えていました。もっとすごいのは生活に満足している、生活満足感というのが、男女とも86%超えているんですよ。それで男性長寿が日本一、安曇病院にかなりの方がかかっているようですが、松川村に住むと生活に満足して、結果として健康観がいいのかもしれない。なぜそういう風になっているのか個々のいろんな要因を調べ始めているところで、空気がうまいとか、水が綺麗とか、なんとなくあいまいなことがいっぱいあります。安曇野市でもいいところになれば全体が底上げされるんじゃないかと思えます。そういった自治体に住んで満足しているというご意見が非常に多いとおそらく健康の方にも反映されてくるだろうし、皆さんもご存じのとおりソーシャルキャピタルという隣近所の絆もある。大きな町に行くとそういうものが薄くなって隣が何をやる人か知らないことが多いんですけど、小さいとこに行けば隣近所との結びつき絆、そういったものが健康にも非常に大きな役を及ぼしている。安曇野市がどういう風になっているか知りませんが、安曇野市特有の何かそういったものを出していただいて、安曇野市の絆がいいんだよとか、そういったものを1つ売りにできるんじゃないかとあまりそういうこと出しているところはないですよ。食育の政府からもありますけども、ぜひ安曇野市に特化して何をやっていくのか1つ2つ目標を決めてやっていただくとよりいいかなと思います。今年の予定だと8月6日の講演会の他には特になんかということですね。昔やっていたコンテストとかはもうやらないんですか。

(事務局) 今のところ考えてはいません。

(会長) 他の自治体でやってないので素晴らしいと思いました。

(委員) どんなコンテストしていたのですか。

(会長) 小中学生がレシピを考えました。

(事務局) たべたくんの頭の上に安曇野市の特産の食材が乗っているんですが、その食材を使ってレシピを作成してほしいというコンテストだったと思います。

(委員) あれもどこまで給食で実施したかね。結構やったみたいだね。

(事務局) そう聞いています。提供しやすい形にレシピを変えて給食に出していただいたそうです。

(会長) 子どもたちに料理作ってもらって、委員の人やたくさんの人に食していただいて投票した。順位をつけて商品か何かあげたりして、小中学生くらいだったかね。

(事務局) 前任の方がやられていたので、しっかり覚えていないんですけど。小中学生に出していただいたと思います。

(会長) あれば参加体験型というか、何か言われてやってもその後に残らないんですよ。自分でやって参加して家族もみんな考えて、商品までいただければモチベーションが出てくる。そういう風なことを子どもの頃からやっていくとすごくいいんじゃないかと思う。何でもいから家族、それから参加体験型、これを2つキーワードにしているいろいろ考えて、アイデアを出してほしい。他でやってないことをやる。他の自治体でやっていることはやって当たり前。やってないことを何か考えないかということをついつも病院でも言っています。

(委員) あの時、優秀な子は結構家で一緒にやっていたよね。お手伝いをしながら、小さい時から包丁を使っている。調理師からすると大変いいことだと思っているんですけど、やっぱりよくやっている子はちゃんと素材の物をよくわかっているし、熱をどの位まで加えていいかわかっているような調理方法が多かったように思います。

(会長) いろいろアイデアを考えてください。

- (委員) またやってもいいんじゃないですか。先生に褒められているんだから。
- (会長) 安曇野市で今まで何年もやらせていただいているけど、すごく残っているのはコンテスト。松本ではやっていません。
- (委員) 松本でやってないことをやらないと。
- (会長) やり方だけど、マスコミとかも少し入れてアピールすることが今の世の中絶対必要。安曇野市こんなことやって、生徒家族みんなで健康を守って頑張っているんだよという風にしていただくと、モチベーションも違ってくる。松本市はたくさん何かやっているらしいんだけど、なんかほんとにやっているのって感じで、そんなの知りませんってのが多いんですよ。やっちはいるんだけど、周りの人に知られてないっていう。ぜひそういったことも含めて、何年も委員やらせていただいているし、皆さんも同じ顔ぶれの人が多いので、そういった新しいところも一緒に考えていきましょう。
- (委員) もしやるならお年寄りから出してもらえようなものをぜひやってほしい。例えば70過ぎのお年寄りはどんなことを考えるか。何食べているかわかると思うんですよ。最近年寄りのご夫妻だけというのが多くなってしまっていて、子どもとコラボさせてみたりしたら面白いかもしれないです。
- (会長) 仕事増えて大変になりますけど、だいたいライフステージ毎のことはわかったので、この計画書、素晴らしいのを作っていただいて、だいが勉強させていただいた。またどんどんと新しいこと考えて。調理師の方もいらっしゃるの、あんまりそうゆう会、たしか松本市にはなかったの。
- (委員) P31食文化の継承のための活動への支援等というところで、小学校で味覚の授業を調理師会でやっています。今年で5年目になります。今年は堀金の小学校で10月17日と日にちを決めたんですけど、5年生を対象に4クラスやるように予定を組んで話しています。味覚の授業は、フランスから入ってきた授業で、甘い、しょっぱい、にがい、そういう味覚を生徒さんたちに食べていただいて、学課を1時間やって、その後ラタトゥーユというフランスの家庭料理の野菜の煮込み料理を作ってもらいます。和食が世界の文化遺産になり、昆布やかつおでとったダシも昨年から飲んでもらって、それにちょっと塩を加えるとこんなに味が変わりますよっていうような取り組みもやっています。国の食育にも書いてあります。ラタトゥーユじゃなくて、違う料理を作ったらっていう意見もあり、作って生徒さんに食べてもらう料理についても検討していった方がいいかなということも課題です。そういう取り組みをしている中で、生徒さんはすごくいきいきと聞いています。甘さは舌のどこで感じるのかとか、しょっぱいのはどこで感じるのか、そういう学課の授業をやらせていただいています。堀金の主任の先生、校長先生、教頭先生とお話したんですけど、どこの学校も前向きに受け入れていただき、堀金から始まって、豊科、穂高、明科と順番にまだやってない小学校もありますので、今後とも毎年続けて、お医者さん、栄養士さんとまた違う、調理師会の立場で協力できればと思っております。よろしく願いいたします。
- (委員) この味覚の授業、大変興味深く思っております、長野県栄養士会として、一緒に授業に参加させていただくことは可能ですか。
- (委員) オブザーバーで出ていただく分にはいいと思う。何で5年生かという、大人になっていく前段として、ちょうど味覚が一番わかってくるんじゃないかということで、フランスの方で始まったんだそうです。それでもう20年近くになりますが、最初3～5年生でやったんですけど、3年生だと騒ぎが大きくて授業にならない。5年生くらいになるとわりと静かに、そして試食品があるのが子どもたちは面白いんです。苦い、辛いとんでもない物がありますから。
- (委員) 苦いチョコレートを食べてもらいます。塩、砂糖、昆布、シイタケを用意して実際に物を見てもらう。あと野菜も今言ったラタトゥーユというのは、ピーマン、なす、トマトとか入れるんですけど、ピーマンを食べられない子もこれなら食べられるとか、おかわりしたいという子もいます。学校の先生方も素晴らしく、作文を書いて我々に届けていただいた。ほんとに励みになっています。
- (会長) その他、イ 今後の方向性について事務局より説明をお願いします。
- (事務局) その他、イ 今後の方向性についての説明
- (会長) その他、ウ 健康寿命延伸のために各ライフステージで取り組むことについて事務局より説明をお願いします。
- (事務局) その他、ウ 健康寿命延伸のために各ライフステージで取り組むことについての説明
- (会長) 安曇野市の現状も踏まえてご説明いただいたということで、若者から高齢者まで課題が浮き彫りにされてきていると思います。この辺また重点的にやっていただければと思います。

※会議概要は、原則として公開します。会議終了後、2週間以内に企画財政部まちづくり推進課へ提出してください。

※会議を非公開又は一部非公開とした場合は、その理由を記載してください。